

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

※
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン・持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

＜男子＞

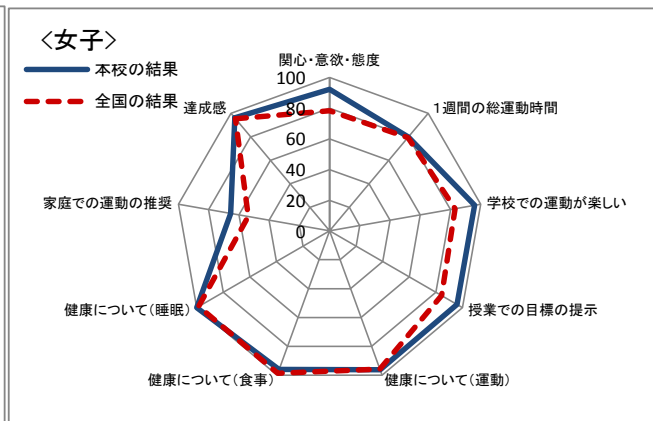
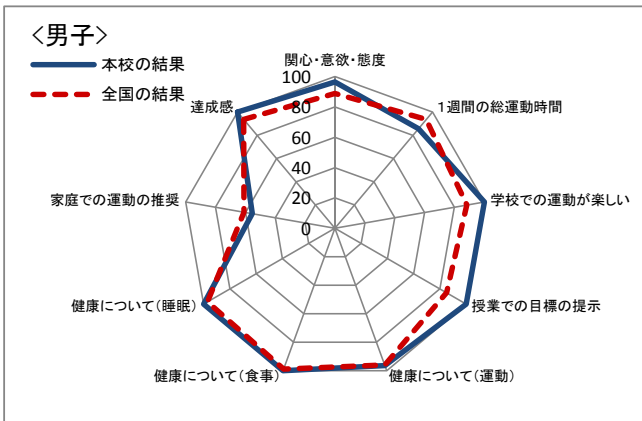
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.91	27.46	43.06	51.93	391.72	86.24	8.03	194.69	20.59	42.13
本市	29.55	28.06	44.81	52.32	388.77	87.33	7.93	197.50	21.05	43.99
全国平均以上の種目		○				○	○		○	○

＜女子＞

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.75	23.48	45.46	46.60	288.51	58.80	8.83	168.28	12.85	49.56
本市	24.21	23.51	46.78	46.51	293.87	58.23	8.81	169.02	12.76	50.04
全国平均以上の種目							○		○	

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・男女ともに運動することが好きな生徒の割合は、全国平均を大きく上回り、保健体育の授業が楽しいと感じている生徒が男子100%、女子96.2%にのぼる。
- ・「最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた生徒の割合は全国平均を上回り、健康について(運動・食事・睡眠)も9割以上が大切であると考えている。
- ・学校の授業以外の運動時間(1時間以上)が全国平均を下回っており、男子においては家庭での運動の推奨の割合も低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

- ・保健体育の授業での目標提示を今後も継続する。
- ・持久走や縄跳びを授業に取り入れ、タイムや級を競い合わせることで、意欲の向上を図っている。
- ・指導者が2人体制で行うことで指導がきめ細かいところまで行き届き、技能の向上が見られ、生徒もより意欲的に取り組めた。
- ・個人カードを使用することで、その日の学習の振り返りができる(教師もそのカードにアドバイスをし、生徒とのつながりを持っている)。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・昼休みにグラウンドで思い切り体を動かす生徒は各学年とも多く、休み時間と5時間目の授業の切り替えが上手に行えている。
- ・5時間目に保健体育の授業があるクラスには、15分ほど早めに体育館を解放し、生徒が授業前に体を動かしている。